



編集月旦 2014年3月号

★「東京開花宣言」(25日)の翌日、3月26日、靖国神社境内の「標本木」の桜です。たしかにこの枝には、5、6輪の開花がみられました。本殿には頭を下げずに、桜を見上



げて帰りましたが、心中は複雑です。日本人と欧米・中国人の死生観(戦争観)との違いは明らかで、「すべての英霊」を

いう安倍論理が受け入れられる素地はありません。首相としての靖国参拝は、歴史的反省もなく、同じ道を歩むナショナリストとして、国際的孤立を深めることになるでしょう。

★2020年の4年に1度の若者の祭典「オリンピック・パラリンピック」とともに、2022年の20年に1度の「高齢化に関する世界会議」(1982年ウィーン、2002年マドリード)というふたつの国際イベントを同時進行することが、高齢化トップランナーであるわが国の高齢者の誇るべき国際主義の表現といえます。首都TOKYOは、オリンピック開催都市として年間5000人を超える「孤独死」がつづくような姿を来訪者の目にさらすようなことはあってはならないからです。東京が負担なら、会場の幕張メッセと成田国際空港とすぐれた「房総長寿社会憲章」(1992年制定・2022年は30周年)を持つ「千葉県」が招致して国際性をアピールするまたとないチャンスです。

★ふたつの高齢社会にかんするセミナーを追ったために月内いっぱいでの刊行になりました、ひとつはRISTEXの「コミュニティで創る新しい高齢社会のデザイン」(2・11、3・7)であり、もうひとつは全社協が主催した「生活支援サービス推進セミナー」(3・24)です。前者は2月号(上)の小宮山宏講演につぐ(中)編で、新たな構想である「リソースセンター」と「リビングラボ」を論じるパネル・ディスカッション(秋山弘子・東大高齢社会総合研究機構特任教授が司会進行)です。また後者からは、地域活動の活性化をすすめる堀田力・さわやか福祉財団理事長の講演(「新地域支援構想会議の取り組みと新たな地域支援事業への考え方」)をとりあげます。

☆各地各界の敬愛する高齢者のみなさんに呼びかけています。

◎「アベノミクス」の恩恵は高齢者にはとどかない。

◎安倍政権下では格差がひろがって高齢者への敬意が薄れていく。

◎2014年は「団塊の世代(700万人)」すべてが高齢者の仲間入りをする。

4人にひとり・25%・3200万人に達した高齢者(65歳以上)が

- ・生活圏で新たな「モノ・居場所・しくみ」をつくりながら存在感を示すこと。
- ・地域・平和・民主主義のもとで「長寿社会(平和の証)」の達成にむかうこと。
- ・国防軍ではなく国民運動として地域を愛し国を守る姿を示すこと。

それなら隣国から非難を受けるどころか敬意を受けることになるでしょう。

◎上の趣旨にご賛同いただき、お仲間に、とくに「団塊の世代」のみんなに「文風」の転送をお願いいたします。e-mailの力を信頼しつつ。

失礼があればお恕ください。

\*\*\*堀内正範 朝日新聞社社友(元『知恵蔵』編集長) 高連協オピニオン会員

E-mail [mhori888@ybb.ne.jp](mailto:mhori888@ybb.ne.jp)

Tel & Fax 0475-42-5673 Keitai 090-4136-7811

〒299-4301 千葉県長生郡一宮町一宮 9340-8

Web 「文人の会」「月刊文風」<http://jojjin.jp>

